

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	RE:fure		
○保護者評価実施期間	2026年2月2日		2026年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11人	(回答者数) 11人
○従業者評価実施期間	2026年2月2日		2026年2月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数) 5人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月25日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	身体機能や体の使い方を適切に向上させることができる。	トランポリン、ドッジボールコートなど運動療育の器具が充実している。利用者が思う存分体を動かすことができる。	作業療法士等の確保や運動専門家からの助言、地域資源の連携を通して、専門性を強化していく。
2	将来の向けての自立支援活動の強化。	食育、洗濯機の使い方、洗濯物の干し方など自立支援の機会を提供。また、職業体験の実施や、希望する職業の作業内容を早期段階で習得し、将来の視野を広げられるよう支援を行っている。	職業体験など受け入れの幅を広げていくため、地域事業者との連携強化。利用者のニーズに合わせた職業体験の実施を行っていく。
3	福祉施設からの卒業ができる。	1年生から入所の場合、6年生卒業までに福祉施設を利用しなくても自立した生活ができるように支援しています。	専門家からの助言、指導を参考により質の高い自立支援プログラムの構成を目指す。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	余暇活動の選択肢の少なさ。	高学年在籍の利用者が多いため、遊びの固定化が見られる。	遊びの研修などを受講し、職員から集団での遊びを提供し、利用者同士のコミュニケーションをとる機会を増やしていく。
2	保護者との会話が十分に行えない。	保護者等の相談を玄関での会話で対応してしまっている。	職員室または談話室などの空間を設置し、保護者との情報共有の強化を図る。
3	職員の専門性向上。	研修等は実施しているものの、職員個人の専門性理解にばらつきがみられる。	職員一人一人のニーズに応じた研修会の実施を行い、職員間でのコミュニケーション力の強化。ロールプレイなどを多く取り入れ、チームで事例検討を行い、都度助言をする。